

# 平成29年 わたしたちの 練馬区は独立 70周年を迎えます!



練馬区は、昭和22年8月1日板橋区から独立、23番目の特別区として誕生しました。以来70年、練馬区は区民の皆さまとともに、発展を続けてきました。これからも、わたしたちの練馬区を、よりよい「ふるさと」に育てていきましょう!

## 独立70周年記念 事業を実施します

- こぶしハーフマラソン、照姫まつり、こどもまつりなど恒例の行事にも、70周年記念の特別企画を計画しています
- 70周年記念式典／独立サマーフェスタではアート、音楽、こどもをキーワードに70周年を盛大に祝います

節目の年を、区民全体でお祝いし  
わがまち練馬を愛する気持ちを  
再確認する機会にしたいですね!



新年を迎えて



練馬区議会議員 第五十九代議長 副幹事長・監査委員  
**関口 かずお**

議会運営委員会 委員

常任委員会 区民生活委員会 委員

特別委員会 総合・災害対策等特別委員会 委員

各種委員会 民生委員推薦会、土地開発公社評議員会

ご相談は… 関口かずお 事務所

〒176-0021 練馬区貫井 3-53-8

Tel / Fax : 3998-1752 HP : <http://www.k-sekiguchi.jp/>

## 今、そばにいることの ありがたさ

練馬で生まれ育ち、これまでの人生のほとんどを練馬で過ごしてきた私だが、もつひとつ、大切におもっている「ふるさと」がある。母の実家のあった、千葉のとあるまちである。

小学生のころまで、毎年夏になると、母に連れられてそのまちへ行き、母の実家に寝泊まりして過ごしていた。浜辺で地引網を引き、池に魚を取りに行き、田畑で虫を取り…朝から晩まで、自然の中で遊びまわった。一人っ子だった私にとって、親戚の子たちと大勢で過ごすこともまた、実に楽しかった。幼い私に刺激を与えてくれた、新鮮な魚の味、海のおい、真っ青な空は、間違いなく、今の私の一部になっている。

そんな千葉の「ふるさと」には、先日閉店した、秩父の蕎麦屋のご店主お勧めの日本酒の酒蔵もある。いつか訪れてみたいとおもいつつ、去る十月のある日、ようやく実現した。

東京から特急に乗り込み、一時間と少しで到着。子どもの頃には、朝練馬を出て、電車を乗り継いで到着すると、夕方になっていたのは、ずいぶん違っている。駅前の風景も、子どもの頃の記憶とは違っていて、すぐには馴染めなかった。

母の実家は、駅の東側だったという記憶と地図を頼りに進むと、酒蔵が見えてきた。杉玉のつるされた木の門をくぐり、作業場に併設された販売コーナーに行くと、若い女性がそれぞれの酒について説明しながら試飲させてくれる。秩父の蕎麦屋で一番多く飲んだもの、自然農法で育てた米で仕込んだもの、仕込み方の違いで、まるでワインのよつな味のもの、四十年熟成の古酒など、一口ずつではあるが、様々な味わいに、この蔵に出会えてよかったとおもった。

説明をしてくれた女性はこの蔵の娘さんで、彼女もまた、自分の蔵の酒を大切におもい、自分の言葉で、その酒の味や香り作り方を伝え、大切に味わってもらいたいとおもっているのだな、と感じた。

試飲しているとき、四代目にお会いできた。秩父の蕎麦屋でこの酒に出会ったこと、自分の母の実家がこの地であり、幼いころ夏を過ごしたことなどを話した。四代目のお顔はおだやかだが、自らの蔵を守り育てた強さも感じる、この蔵の酒を思わせる方であった。秩父の蕎麦屋のご店主も、四代目も、本当によい縁をいただいたとおもった。そして、同世代である自分も、お一方のように、自分のおもつ道を、まっすぐに生きて行きたいと、心からそうおもった。

結局、母の実家は見つからなかったが、川や海辺、丘や生け垣の小路など、幼いころに見た風景はまだ残っていた。小春日和、少し汗ばみ歩きながら、母をおもい、これまでの自分の人生をおもい、自分が今、ここにいてよかったことに、胸が熱くなった。

